

布佐間放水路(案)概要
船橋

延長 二八料(七里)

幅員 一四五米乃至二三五米(低水路五〇米乃至七〇米)

水深 東京灣中等潮位以下 二・八米乃至三・八米

掘鑿土量 四千四百万立方米

流頭施設 溢流堰 及閘門

總工費 約二千九百万圓

竣工後副産的ノ利益

印旛沼、手賀沼、干拓 四千町步

海面埋立 三百万坪

運賃ノ節約 十年 五百万噸

約四千万圓

航路ノ短縮 (江戸川河口ヲ起莫トシテ) 七里
銚子ニ至ル間

印旛沼堀割工事

沿革摘録

目次

(一) 關壑水運及利根川分水の目的ヲ以テセル工事

(1) 第一回工事

(2) 第二回工事

(3) 第三回工事

(4) 第四回計畫

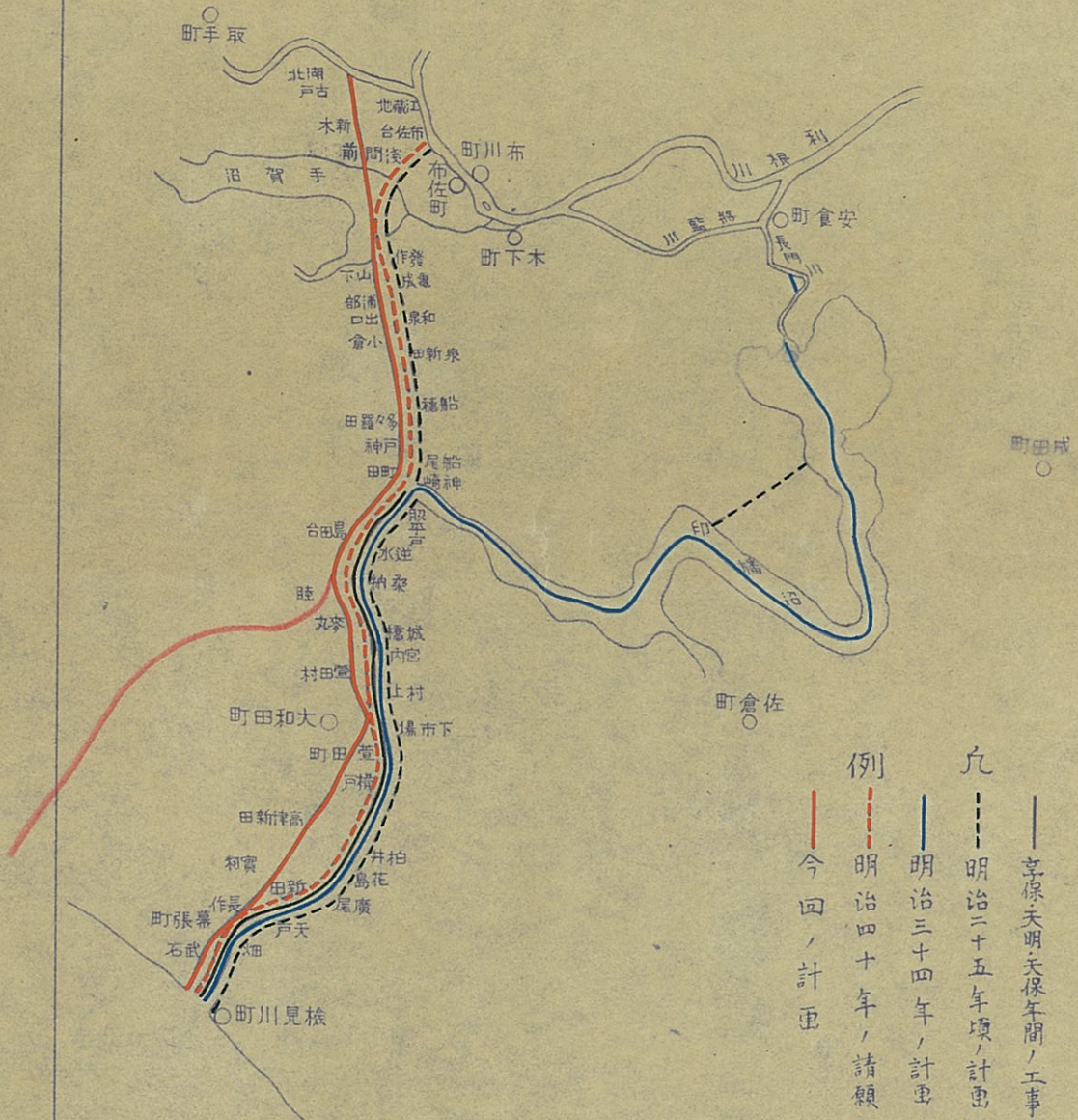
(5) 第五回計畫

(二) 利根川分水の目的ヲ以テセル計畫

(1) 明治四十年、請願

(2) 今次ノ計畫(昭和放水路)

印旛沼堀割線圖



東 京 灣

◎市業千

縮尺二十萬分一

—— 享保天明天保年間ノ工事

九 ——— 明治三十五年頃ノ計畫

—— 明治三十四年ノ計畫

例 ——— 明治四十年ノ計畫

—— 今回ノ計畫

(一) 開鑿水運及利根川分水、目的ヲ以テセル工事

(1) 第一回工事 (民費)

目的
計画及施工者
幕府検査官
計画概要

起工及中止
中止ノ理由

開鑿 約三千町歩乃至四千町歩
千葉縣千葉郡平戸村 農民 染谷源右衛門等
勘定所吟味役 井澤彌惣兵衛 外二名
路線 平戸―檢見川間 四里十二町餘
土量 百十六万三千四百四十四坪
火費 三十一万四千四十六兩 潰地 七十町歩
享保九年(經三三六)八月二十九日起工 同年中止
工費不足ノ爲

(工費トシテハ染谷外數名ノ出資ト幕府ヨリ借入金數千兩ニ過キザリニ爲)

(2) 第二回工事 (幕費)

目的
主宰者
計画概要

開鑿水運

老中田沼主殿頭意次

計画トシテハ利根川分水ノ目的ヲ兼ヌル爲水路幅員ヲ二十間トシガ施
工ニ於テハ幅員六間トシ且將監川ヲ締切レリ 施工土量約七十万坪ト想
定ス

起工及中止
中止ノ理由

天明三年(續三四三)起工 同六年中止
天明六年洪水ヨリ將監川綿次等欲濱ヤルト同年八月田沼玉殿頭、
罷職トシヨル

(3) 第三回工事(幕賢及名藩手傳)

目的
主唱者
工事担当者
計画概要

起工及中止
中止ノ理由

(4) 第四回計画

目的
主唱者
計画概要

開墾水運
金原明善等(内務大臣京請)
吉市末局長(命ノ受ケテ大學教授清水濟(土科大學三野田六次、
卒業論文完ラ野田六次總額八十万円計画ヲ作製ス)

開墾水運及利根川分水
水野越前守(三宮金次郎(御普請役格)
松平因幡守(酒井左衛門尉(水野出羽守(黒田甲斐守(林播磨守
計画土量 三十九万坪 施土量 五万坪(但第三回工事ノ功程ヲ
残土量 三十四万坪
工費 五藩ノ出資ノミニ二十三万余兩
天保十四年(續三五〇三)
水野越前守ノ罷職ニヨル

(5) 第五回計画

目的
主唱者
計画概要

開墾水運
千葉縣
古市公成

路線
安食檢見川間十里十六町 内掘割五里十九町
水路
敷幅四十五尺(檢見川七十三尺) 深低水位以下五尺
河底勾配十分分六(保品平戸間) 二分分一(橋戸畑間)

工費
三百四十万円
工事種類
掘鑿浚渫土量 八九一五〇〇坪 築堤埋立土量 四七三、九〇〇坪
清渠 六〇〇〇間 突堤 四二〇間
橋梁 鉄橋二、木橋 七〇〇面坪 護岸(土張) 二、六〇〇面坪
粗朶護岸 七〇〇〇面坪 石張 二、四〇〇面坪
船溜護岸 八七五〇〇 海岸堤 四八〇〇間

水雷艇運送ニ関スル件
一等艇水深八尺、二等三等艇ハ七尺ヲ要ス、然ルニ安食附近ノ利根(平水七尺、水深ナ
ルト尚將監川及疏水路ノ水深ヲ七尺ニ維持スル事困難ナルヲミナラズ普通水路トシテ流
量六百九十個ヲ要スルトニヨリ計画ヲ變更セザレバ故ニ水雷艇ノ通航ノ利根川ノ
水位高キトキニ限ラレバシ

利根川分水の目的ヲ以テセル計畫

(7) 明治四十年

主唱者 的 計画路過

茨城縣北相馬郡及船數郡 利根川分水

布依ヨリ手賀沼淺間前ヲ過キ平戸・横戸・天戸ヲ過キテ檢見川海岸ニ至ル
別紙ノ如キ請願ガ明治四十二年二月一日世ノ光ノ附録トシテ掲載セラレ居ルヲ
以テ明治四十年頃縣及内務省ニ請願シタルモト認メラルモ、モ、茨城縣ハ新廳
舎ニ移轉、際大正年間迄ノ書類ヲ破棄シタルヨリ其請願ニ関スル詳細ヲ
知ルニ由ナシ

但シ世ノ光ハ刊行物ナルヲ以テ帝國圖書館ニ所藏シタル見込ナリ

〔請願文〕

某等謹シテ白ス、我々茨城縣稻敷北相馬兩郡タルヤ利根川流域ニ沿フテ南岸千葉縣東葛飾野稱アル蓋シ偶々諸川ハ非ルナリ然ルニ夏秋ニ交シ方ニ異方ノ風雨數時ニ渉レハ必
然利根流域ニ湊合スル諸川ハ非ルナリ然ルニ夏秋ニ交シ方ニ異方ノ風雨數時ニ渉レハ必
其害ヲ被ラサレ莫クシ、就中九年往明治元年全三年全十一年全十八年全廿三年全廿五年全廿
九年全廿一年全廿四年全廿七年全廿九年全、其間農作物ノ腐敗セシ人畜ノ害シ流シ甚ナルモ、
茂年農作物ノ腐敗セシ人畜ノ害シ流シ甚ナルモ、
岸數十萬ノ農民ハ俄然生業ヲ失シ窮民ヲ出シテ一家離散ノ窮境ニ出スルハ至リ、
千人多キニ達シ、愈々益々、
大洪水ニシテ、
掩護セル堤塘ヲ潰レ、
城ヲ濫シ、
於テ東葛飾印旛郡ニ於テハ、
郡ニ於テハ、
其於テハ、
意、
派、
流、
待、
森、
縮、
増、

慘毒ヲ逞フセシムルニ至ル故ニ水害ヲ除却シ其等被害民ヲシテ其堵ニ安シセシムル
 道他ナシ利根河身ノ改修ト共ニ下利根川筋小貝川注口附近ノ對岸ヨリ新川ヲ開鑿シ分
 疏工事ヲ施スコト良策ナレ之レ幕府時代ノ諸治水家ノ等シク唱道スル處ニシテ我地方
 亦最善ノ治水策ナルヲ信ス要スルニ新川ハ東葛飾郡布佐野江藏地ヨリ之ヲ全町ノ字
 淺間前ニ導キ平賀沼ノ一部ニ貫通シ發作魚成和泉多々羅田戸神船尾神崎ノ地ヲ經テ印
 橋沼ノ西岸平戸橋ヨリ檢見川ニ開通シテ東京灣ニ放流セシムルニ在リ若此工ニシテ在
 萬企劃セラレサランカ不測ノ洪水ハ年々頻々トシテ至リ関東ノ沃野モ遂ニ變ジテ遊水
 池トナリ民衆ハ年々逐々テ流離顛沛復タ救フベカラサルニ至ラン事必セリ今ヤ國費多
 端ニシテ過重ナル租稅ノ負擔ニ懊惱シ民カ日々窮亡ニ重ントス況ンヤ嘗テ蒙リシ水害
 ノ倉庫末々有テ典シテ糊口ニ資スト雖モ曷ソ克ク長日月ヲ持スルヲ得ン豈ニ痛嘆カ
 衰餘ノ所有テ典シテ糊口ニ資スト雖モ曷ソ克ク長日月ヲ持スルヲ得ン豈ニ痛嘆カ
 至リナラスヤ
 仰キ願クハ閣下此水害ノ起因及慘害ノ波及スル處ヲ至細ニ查覈シ一日モ速カニ利根川
 分疏工事ヲ企劃シ利根川ノ根本的治水策ノ確立ヲ其筋ハ建議セラレシコトヲ誠恐誠惶
 謹ンテ請願仕候也

明治四十年 月 日

利根川分疏ノ畧圖

